

# 「うさぎ」を題材とした身体表現の効果的な指導方法の研究

養成校の取り組みから

## A Study of Effective Teaching Method in Physical Expression about [Rabbit]

Experiment in Training Schools for Nursery Teachers

小松恵理子 青木理子\* 小川鮎子\*\* 宮嶋郁恵\*\*\*  
Eriko Komatsu Riko Aoki Ayuko Ogawa Ikue Miyajima

### 1. 研究目的

表現とは、「感じたり考えたりしていることを、自分にも他人にも知覚できるような形にする」ことであるとされている。<sup>10)</sup>

その知覚できる形にする方法の一つとして、身体表現があり、幼児の豊かな感性と創造性を高める表現活動として保育現場での実践がなされている。そのねらいを達成すべく、これまで幼児の豊かな身体表現活動を引き出す有効な手立てについて、養成校としてより実践的な指導法とは何かについて検討してきた。

これまで、その効果的な手立てとして、ロープ等の素材を用いることの有効性について検討してきた。その結果、指導のきっかけとしては素材を用いることが、多彩な動きや動きの発展に有効であるということを報告した。<sup>9)</sup>しかし、素材を用いることで豊かなイメージを膨らませることができたかどうかについては明らかにすることができなかった。

そこで、今回は豊かなイメージを膨らませる手立てとして、青木が「表現を引き出す手立て」

として挙げる中から<sup>1)</sup>視聴覚教材(VTR)を取り上げた。身体表現場面でのVTR視聴については、このような手立てがあるという内容の記述<sup>1) 4)</sup>は見られるが詳細な有効性についての検討が不足していると考えられる。

また、平成17年度に九州管内の保育者を対象にした身体表現に関する調査では、身体表現活動を困難にしている外的要因として「幼児の生活体験の減少」ということが挙げられた。<sup>2)</sup>

そこで、本研究では直接体験を補う間接体験としての視覚的教材(VTR)による「動物(ウサギ)」の視聴前後でその表現方法がどのように変化するかを明らかにすることによって、豊かなイメージに裏打ちされた動きの引き出しに間接的体験である視聴覚教材の使用が有効であるかどうかについて検討した。

### 2. 【研究方法】

1. 実験日：2007年11月～12月

2. 被験者：保育者養成校(5校)に在学する学生 計69名(表現に関する授業を受けた期

\* 尚綱大学 \*\* 佐賀女子短期大学 \*\*\* 福岡女子短期大学

間が半期から1年以内の学生)

### 3. 【実験方法】

実験の種類	内 容
実験	- 「うさぎ」を題材に、5分間で思いつく動きを用紙に記入する。
実験	- その後、表現したい動きに順位をつける。
実験	- アンケートをもとに5分間「うさぎ」の身体表現を行う。その表現内容のVTR撮影を行った。5分以内で終了した場合は実験者に合図することとした。
実験	8分間の「うさぎ」のVTR視聴後、実験1 - と同様の手順を踏襲し、表現結果のVTR収録を行った。

### 4. 分析項目：VTR 視聴前後の

表現時間 表現したい動きの個数 表現内容  
空間変化 (高さ) 質的变化

### 5. 検定方法

カイ二乗検定・対応のあるT検定

### 【結果と考察】

#### 表現時間

対象者が動いている時間を表現時間とし、その長さを集計すると、VTR視聴前後で変化しない例もみられたが、全体的にみると[図1]に示すように視聴後のほうが長く動いていた。(5%水準)

#### 動きの個数

アンケートに記載された表現したい動きの

### 視聴覚教材「うさぎ」(VTR)の内容

番号	時間	チャプタータイトル	主な動きの内容
1	0~52 (52秒)	かいうさぎ	巣近くの岩肌に座り、顔を拭く。舐める。あちこち見る。穴の入り口で顔を出したり、入れたりする。岩肌を駆け上る。
2	~1 18 (26秒)	のうさぎ	跳ぶ。跳ねる。後ろ足で立つ。警戒する。
3	~2 24 (66秒)	よくきこえるよ	じっとして座り、耳を動かす。(きつね)
4	~3 26 (62秒)	はいいぞ	足を舐める。(犬鷲)雪面を走る。様子を窺い、また走る。
5	~4 24 (58秒)	す	穴を出入りする。藪の中で静かに <sup>うずくま</sup> 蹲る。巣から出たり入ったりする。
6	~6 45 (141秒)	かいうさぎのあかちゃん	体の毛を抜く。赤ちゃんの寝床を作る。生まれたてのあかちゃんが蠢く。草を顔で動かす。口をモゴモゴ動かす。赤ちゃんうさぎが眠る。おっぱいを飲む。転がる。座る。頭の後ろを掻く。
7	~7 34 (49秒)	のうさぎのあかちゃん	藪の中であちこち見る。草を食べる。
8	~8 34 (60秒)	げんきなうさぎ	穴から出る。跳ぶ 止まる。周囲を窺う。岩の上をあちこち動き回る。

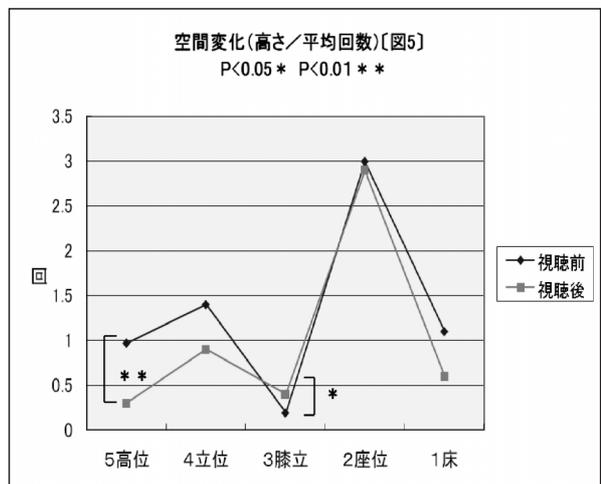
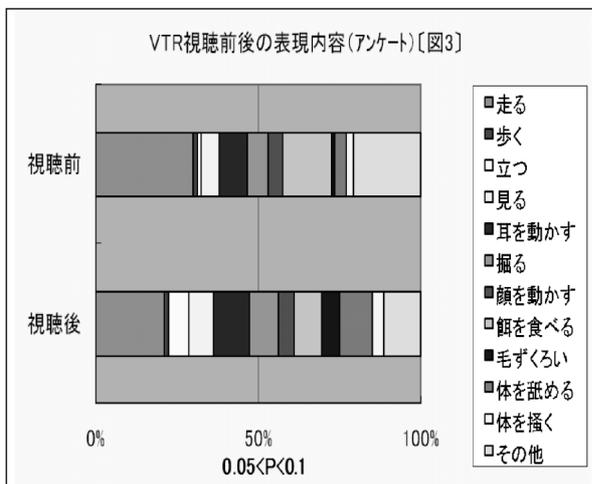
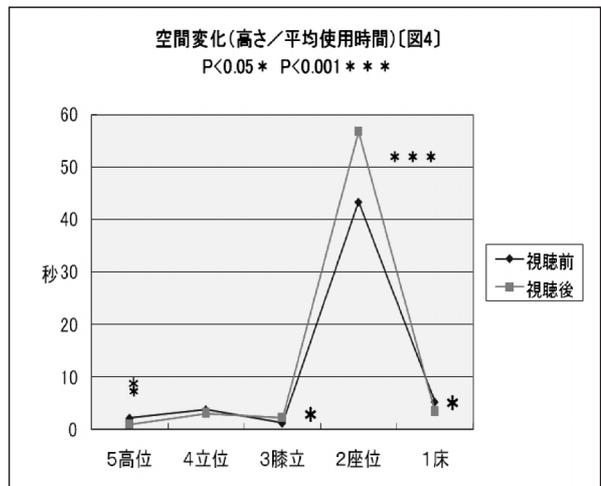
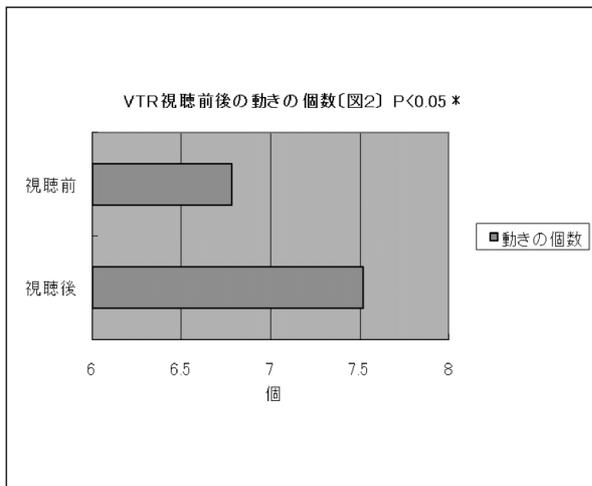
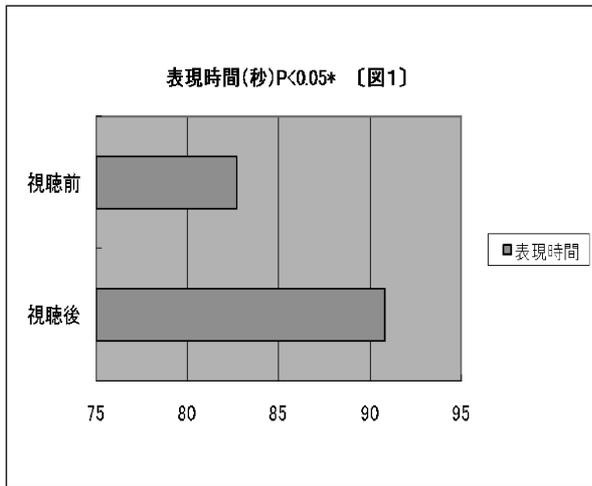
個数を集計した結果、動きの個数は視聴後に有意に増加した。(5%水準:[図2]参照)  
表現内容

表現したい表現内容については,[図3]に示すように、視聴前では「走る」「餌を食

べる」「その他」といった部分が多く占めているが、視聴後は上記3つが減少し、「耳を動かす」「体を舐める」「毛づくろいをする」といった内容が増加し「その他」が減少している。このように「走る」「餌を食べる」といった学生がもっている「うさぎ」の一般的イメージが減少し、図中央部分が視聴前後で量的に増加しており、うさぎの動きのイメージがより明確になっていることを示すと思われる。VTR視聴により表現の範囲が拡大する傾向にあるといえよう。

空間変化(高さ)

空間変化(高さ)については[図4]に示すように、視聴前後いずれも「題材:うさぎ」の特性を受け、座位が大半を占めている。視



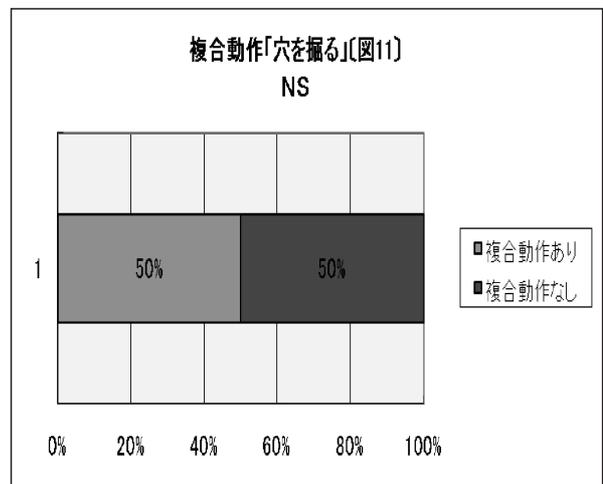
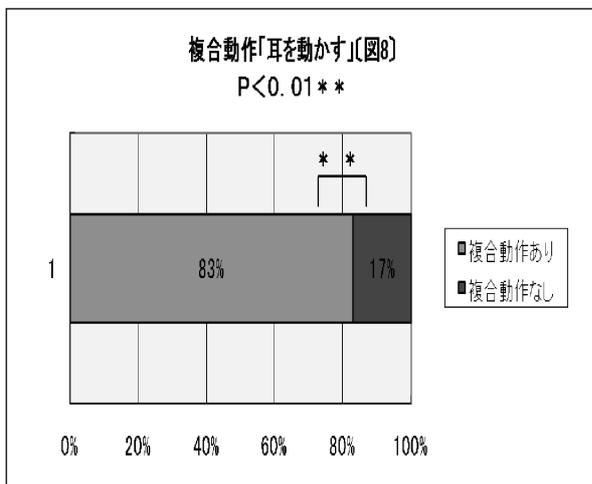
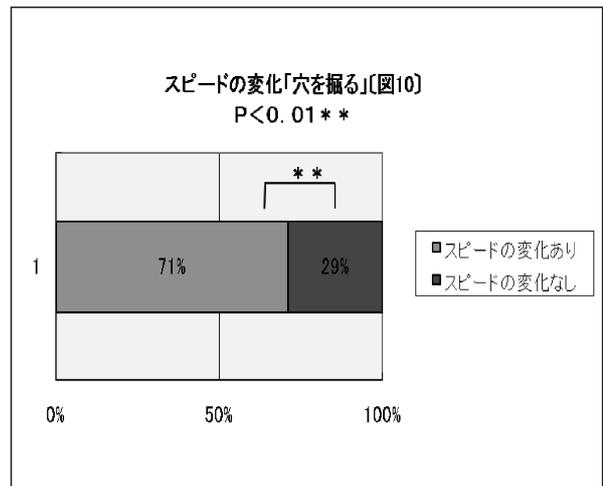
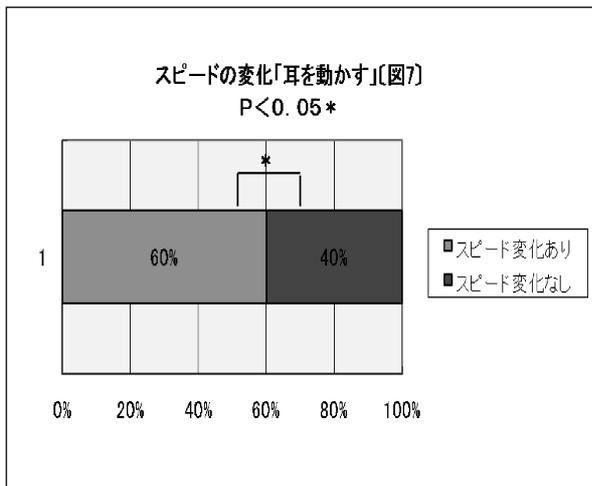
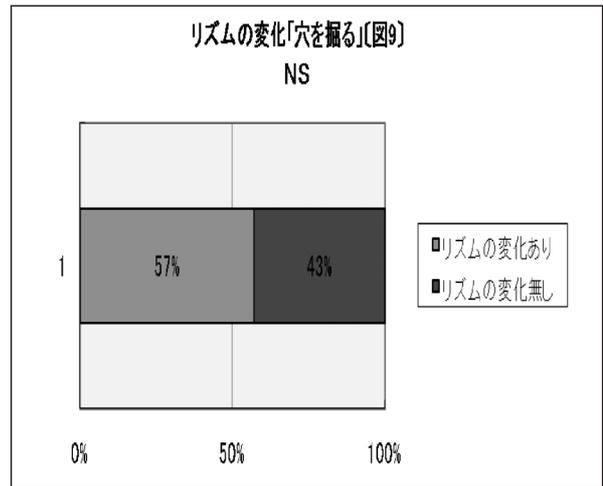
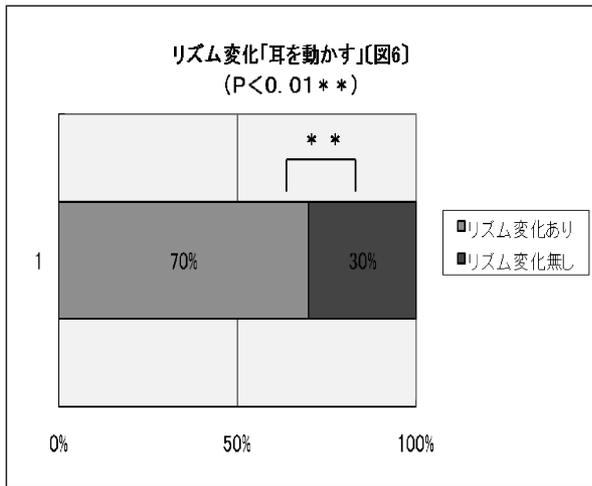
聴後の平均使用時間においては膝立（5%水準）・座位（0.1%水準）が増加，立位の使用時間に変化は無く，高位・床（5%水準）での使用時間が減少した。

[図5] に示す変化回数では視聴後は，座位

の使用回数は変化しないものの，高位・立位・床の使用回数は減少した。（5%水準）

質的变化

質的变化について代表的と考えられる「耳を動かす」という動きにおいては，VTR 視



聴前は単調なリズムで行う学生が多くみられたが、視聴後、図6～8に示すように不規則なリズムの出現やスピードの変化、複合動作の出現等、複雑な動きでの表現に変化した。

同様に「穴を掘る」という動きにおいては、図9、11に示すように、リズムや複合動作に顕著な差は見られなかったが、図10に示すようにスピードに顕著な差（1%水準）がみられた。

## 【結 論】

このように、表現しようとする題材に関する視覚的教材を提示することにより、「表現時間」が長くなる・「動きの個数」が増加する。または表現したい内容が増加する傾向があり、細かい表現の質的变化も見られ、より豊かな表現へ導くことが可能であるといえよう。しかし、見ることにより視聴前にあった自由な発想や空間（高さ）の使用等が制限されることが明らかとなった。このことは表現が写真のように写実だけを目的とするのではなく、空想や自由な飛躍等も必要であることから、より豊かな表現を引き出すためにはこの点も考慮して指導にあたる必要がある。

今回は、ことば掛けの影響を省略するため、指示することばは最小限に留めた。動きの量や質が向上するという視覚的教材の功は大いに利用し、問題点については今後の課題とするが、自由な発想を促したり視点の転換を示唆したり、誇張したりする等まさにこの点で保育者の存在が必要になってくると思われる。今後は、間接的体験等の利点を活用し、よりよい指導のあり方についてさらに検討したい。

## <参考文献>

- 1) 青木理子：「第4章 表現を引き出す手立て」 井上勝子・小川鮎子・小松恵理子・宮嶋郁恵他 著 『豊かな感性を育む表現遊び 心と体を拓く』 p33-36 (株)ぎょうせい 2005
- 2) 青木理子・井上勝子・小川鮎子・小松恵理子・宮嶋郁恵他：「保育現場における動きによる表現の現状と課題 平成10年度調査との比較 九州体育・スポーツ学会発表抄録 2006
- 3) 青山優子：『学生の「表現遊び」の指導力を高めるための授業研究 実習後の振り返りより有効性を探る』 第42回全国女子体育研究大会紀要 p40-43 2008
- 4) 荒木恵美子：「第6章 求められる保育者の資質・技能 3項 身体による表現(2)」 角尾和子・角尾稔編著 『表現』 p178-182・p181 川島書店 1999
- 5) 黒川健一：『第7章 領域「表現」のこれまでとこれから』 『保育内容「表現」』 p197-215 ミネルパ書房 2004
- 6) 小松恵理子・青木理子・小川鮎子・宮嶋郁恵：『「ウサギ」を題材とした身体表現を引き出す手立て』 日本保育学会第61回論文集 p661 2008
- 7) 下釜綾子・高原和子・瀧信子：「うさぎを題材にした身体表現を引き出す手立て その1 4・5才児を対象に」 日本保育学会第61回論文集 p660 2008
- 8) 鈴木裕子：「幼児の身体表現におけるイメージと動きの相互作用 題材と言葉がけの違いの観点から」 名古屋柳城短期大学紀要 第21号 p157-170 1999
- 9) 宮嶋郁恵・青木理子・小松恵理子・下釜綾子・高原和子・瀧信子：「豊かな身体表現活動を引き出す素材の有効性について」 日本保育学会第60回論文集 p1162-1163 2007
- 10) 村山久美子：「第4章 表現の発達と保育・教育 1項 表現のねらい」 角尾和子・角尾稔編著 『表現』 p91-95 川島書店 1999

(2008年12月3日 受理)